

講義科目名称： まちの創生論

ナンバリング： N-13-02-D

英文科目名称： Introduction to regional vitalization

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	必修
担当教員			
土居裕美子 (ydoi@tcn.ac.jp)、竹内潔、渡邊太、石田陽介			
授業形態	授業時間数	授業時間外学習時間数	科目区分
講義	15時間	30時間	基礎分野【社会科学】
添付ファイル			

特記事項	資格選択区分 ☒ 看護師資格必修 ☒ 保健師資格必修 ☒ 養護教諭二種免許必修 ☐ 看護師資格選択必修 ☐ 保健師資格選択必修 ☐ 養護教諭二種免許選択必修 ディプロマポリシーとの関連性 ☐ 広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 ☐ 高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 ☐ 専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 ☐ チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 ☒ 病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力 アクティブ・ラーニング ☒ あり ☐ なし 実務経験のある教員による授業科目の配置 ☒ 担当している ☐ 担当していない 実務経験を授業科目にどのように活かしているか 地方自治体の職員として地域に関わる実務経験のある教員が指導する。 科目等履修生ほか受入（受入可能人数） ☒ 受入可 ☐ 受入否 受入可能人数 5名

授業の概要	現在、地域を支えるため、自治体・企業・NPO・地域コミュニティ・教育機関や住民など、地域創生に関わる各主体がさまざまな手法で活動している。本科目では、「地域とは何か」「なぜ、地域創生なのか」の理解からはじめ、地域づくりの現状と課題、地域活性化への関心を高めるとともに、ディスカッション・グループワークを通して地域創生についての自身の考えを深めていく。					
到達目標	・地域創生に関する具体的な事例の考え方や手法、現状と課題について理解する。 ・地域創生の可能性について自身の考えを表現（提案）することができる。 ・地域で暮らす人々の健康と生活を支えるために自身にできること・したいことを表現することができる。					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	オリエンテーション：講義概要・評価方法等 「文化・芸術を通したまちの創生」とは	講義 演習	事後：授業で提示された事柄について調べる		土居・竹内
	2	文化・芸術を通したまちの創生	講義 演習	事後：「文化・芸術を通したまちの創生」について、授業で提示された事柄に基づいて調べ、考える		竹内
	3	「民藝」を通したまちの創生 ① 地域文化における「民藝」の現代的意義	講義	事後：「民藝」に関して授業で提示された事柄について調べる		渡邊
	4	「民藝」を通したまちの創生 ② 鳥取における「民藝」とまちの創生	講義	事後：「『民藝』を通したまちの創生」について、授業で提示された事柄に基づいて調べ、考える		渡邊

	5	地域創造活動としての「ソーシャル・アート・セラピー」 ① ソーシャル・アート・セラピーの取り組み	講義 演習	事後：「ソーシャル・アート・セラピー」に関して授業で提示された事柄について調べる		石田
	6	地域創造活動としての「ソーシャル・アート・セラピー」 ① 芸術とウェル・ビーイング	講義	事後：「ソーシャル・アート・セラピー」に関して授業で提示された事柄について調べ、考える		石田
	7	あいさポーター研修を通して考える「まちの創生」	講義 演習	事後：学んだことを小レポートにまとめる		土居 他
	8	自治体の地域創生施策 倉吉市の取組から学ぶ	講義 演習	事後：「地域創生」について改めて学んだことをふり返し、まとめる		土居・木藤
先行履修科目	「山陰論」を履修していることが望ましい					
テキスト	特に指定せず、必要に応じてハンドアウトを配付する					
参考文献	適宜紹介する					
評価方法	最終レポート60%・小課題40%を総合的に評価する					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出物については適宜クラス全体にシェアして学びを共有する					
備考	本科目は地域志向科目です。地域に暮らす人の生活と健康を知り、2年次科目「地域志向実践論」「地域志向実践実習」につなげる内容としています。					